

令和3年度 第3回浜松市立図書館協議会 会議録

- 1 開催日時 | 令和4年2月22日（火）午後2時から午後3時45分
- 2 開催場所 | 浜松市立中央図書館臨時事務所 4階
- 3 出席状況 | 委員：小杉大輔、酒井勇治、石野純子、北脇浩美、永井宏明、
三宅栄子、三津間洋子

欠席：大場大晃

事務局：文化振興担当部長 中村公彦、中央図書館長 高瀬理子、
館長補佐 山下譲、図書館管理グループ長 内藤真澄、
図書館サービスグループ長 鈴木早苗、
調査支援グループ長 吉田佐織、
資料・情報グループ長 鶴飼康生、
天竜図書館長 村雲稔、春野図書館長 笹竹由美子、
佐久間図書館長 高氏淳、水窪図書館長 宇井智洋、
龍山図書館長 鈴木忠、鈴木加織主任、
森田ひとみ主任、柏木麻友子
- 4 傍聴者 | 0人（一般：0人、記者：0人）
- 5 議事内容 | (1) 令和3年度浜松市立図書館利用に関するアンケート調査結果について（報告）
(2) 令和4年度図書館評価指標について
(3) その他
- 6 会議録作成者 | 図書館管理グループ 主任 鈴木加織
- 7 記録の方法 | 発言者の要点記録
録音 無

8 会議記録

1 開 会

2 小杉会長あいさつ

3 中村文化振興担当部長あいさつ

4 議 事

(1) 令和3年度浜松市立図書館利用に関するアンケート調査結果について（報告）

内藤図書館管理グループ長が説明

◆資料 1-1_令和3年度利用に関するアンケート調査結果（館内）

◆資料 1-2_令和3年度利用に関するアンケート調査結果（Web）

◆資料 1-3_【参考】自由記載欄 への記載のうち「成果」に分類されるもの

◆資料 1-4_令和3年度利用に関するアンケート調査票

質 問 意 見

三津間委員 資料 1-3 「「成果」に分類されるもの」の中で、No45、No49、No70 の成果は子供自身が書いているものである。保護者が書いている訳ではなく、子供達が自主的に図書館を活用していることが分かる。記載欄に書くということは、よほど伝えたいことがあったのだと思う。真に迫る内容であった。平成30年10月に策定した浜松市図書館ビジョンでは、「あなたと『困った』を解決します。」「あなたと『うれしい』を育てます。」「あなたと『楽しい』を見つけます。」を図書館から市民のみなさんへ約束している。子供達の場合は、自主研究をやりたい、困ったから何とかしたい、楽しさを見つけたいと感じた時に図書館職員に相談にのってもらえたということが成果に繋がったのではないか。浜松市図書館ビジョンの方向性に向かって、図書館から市民のみなさんへ約束しているものがストレートに積みあがっていると実感できる。

北脇委員 アンケートの回答では男女で明らかに違いがある。可能であれば、年代別に整理するとよいのではないか。男女別にどの年代がどのように活用し役立っているのかが分かると思う。

永井委員 利用者の図書館に対する考えの把握が難しい時代になってきていると感じた。例えば、年齢の区分として、これまで70歳以上という括りは適切であったが、70歳以上の回答者数を見ると年代別で2番目に多いことから、より細分化したらどうか。また、資料 1-3 「「成果」に分類されるもの」の82件の回答の内、20件ぐらいは10代未満の子供の代理で30代、40代の保護者が回答をしていると考えられる。回答できない子供達のニーズをどう把握したらよいのだろうか。また、性別の区分として、セクシャルマイノリティの方の回答する権利の視点から見直しをする必要があると考える。性別を「回答しない」という選択肢が妥当であるか、「その他」といった別の言葉も検討すべきであるか課題である。

アンケートの項目だけではなく、アンケートの調査方法を再考する時期がきている。例えば、介助を必要とする利用者がどのように来館しているのかによって調査方法も変わる。70歳以上の利用者が1人で来ているのか、介助者と一緒に来ている

のか、介助者が必要な利用者が図書館の中でどのように行動をしているのか等を把握することが必要と感じる。

項目の追加、修正等の細かい更新のみならず、学問的な視野も入れて、アンケートを組み立て直してもよい。

三宅委員 利用者アンケートの項目「図書館のホームページ」や「はままつ電子図書」では、「普通」と回答する利用者が多い。分からないからその答えになるのか、どのような意図で「普通」とつけているのか分からない。今後、「普通」の扱いについて検討をしてほしい。また、それぞれの項目に意見の抜粋があり、その意見がどこの図書館への意見なのか知りたい。

三津間委員 利用者アンケートは、詳細によく分析できている。質問項目が多いと感じるが、前年度比較、経年変化を把握するためには必要とも思う。また、アンケート結果からは、図書館ビジョンの実現に向けた取組の成果が窺える。令和4年度については、浜松市図書館ビジョン《いかす》《はぐくむ》《つながる》《つくる》の4つの視点のうち、どこに力点を置き重点的にやっていくのか知りたい。

永井委員 館内アンケート用紙の回収、集計とともに、インターネットによるWebアンケートも集計し、それぞれ資料を作成している。働き方改革が推進される中で、資料を集計、細分化、分析しておりアンケート結果を活かすことに大変な労力を費やしている。活かすためのデータを効率的に収集する方法を検討すべきである。入館後、利用者が滞在するエリアや滞在時間の調査も含めデータの収集方法は他にもあると考える。今後、集約化だけでなく、さらに細分化し詳細な分析が必要になっていく中で効率的な方法を検討する時期と考える。

石野委員 昨年度に比べて、アンケート回収率は上がっているが、評価ポイントが下回っている項目が目についた。コロナ禍ということもあるが、原因は何であるのか。一方、コロナ対策で講座の人数制限や、講演会の中止、講座回数の縮小を実施しているにも関わらず「⑦講演会、講座、企画・テーマ展示」の評価ポイントは上がっている。評価が上がっている「⑦講演会、講座、企画・テーマ展示」に力点を置いていくのもよい。

酒井委員 資料1-3「成果」に分類されるものに記載されている具体的な意見は貴重である。No11は、家族の繋がりや核家族化の中で、図書館を通して家族の絆を感じる。No27は、図書館で自身の興味があること以外のことを知ることができたという意見である。いずれも、図書館があることで成し得たことであり、図書館の存在意義に繋がる。これら具体的な意見の中には、利用者の気持ちと図書館の方向性が繋がると図書館をよりよくすることが可能であるという多くのヒントが隠れているのではないと思う。

三津間委員 QRコードを読み込むと講演会の日程が出てくるのはとても便利だと思う。コロナ禍ならではのと思う。今後も続けてほしい。

小杉委員 利用者アンケートについては、目的、活かし方、調査方法等について様々な意見があった。アンケート結果としてはおおむね満足と考えられ図書館の機能や取組は評価されていると言える。今後は、アンケート結果をどのように活かすかが課題となる。個々の図書館が回答の結果をどう活かしていくのか。開館時間の延長等の要望も寄せられており、回答できる機会があるとよい。フィードバックする方法を考えてほしい。

(2) 令和4年度図書館評価指標について

内藤図書館管理グループ長が説明

- ◆資料2_図書館評価について
- ◆資料3_図書館評価の方法について
- ◆資料4_令和4年度浜松市立図書館評価指標(案)
- ◆資料5_浜松市立図書館評価(令和2年度)(参考)

質問意見

三津間委員 《いかす》の主要事業である、「親子連れが気兼ねなく利用できる利用コーナーの整備。」の具体的な内容を知りたい。

内藤G長 大規模改修中の中央図書館児童コーナーを、従来に比べてさらに利用しやすいよう、家具の設置位置や雰囲気を考えている。

三津間委員 小さい子供連れの方に、図書館で気兼ねなくゆったりとした時間を過ごしてもらいたいと思っている。はまゆう図書館は子供が利用しやすい図書館であるとアンケートに記載されていた。子供はその特性から図書館のマナーに沿った使い方が難しい。各館は児童コーナーをどのような考えで整備をしているのか。

高瀬館長 浜北図書館や北図書館では、児童コーナーと一般書コーナーのフロアが違うことから気兼ねが少なくなっている。はまゆう図書館はワンフロアであるが、子供が利用しやすいと評価いただいた要因は、目の届きやすさや音が響きにくい仕様等、施設の観点が大きい。施設自体変えることは困難なので、レイアウトを変える、間仕切りを作る、床を音が響かない材質に変更する等、各館の工夫により利用しやすくしている。中央図書館は、大規模改修に伴い、少しでも声が響きにくいよう家具の設置位置を変更するとともに、乳幼児のおむつ替えスペースを設置する。施設そのものを大きく変えることができないが、工夫により利用しやすくする。

早苗G長 物理面以外では、時間を区切り、小さい子供連れの利用者に利用しやすくしている図書館もある。「すくすくタイム」という名称の時間帯を、主にブックスタート等の開催に合わせて設定している。小さい子供連れの方が気兼ねなく利用するための取組であることを、予め館の利用者全体に周知し、他の利用者の理解・協力を得る工

夫も行っている。

北 脇 委 員 本を郵送するサービスの需要はあるか。どのような利用者がいるのか。郵送にいくらかかるのか。

早 苗 G 長 書籍を郵送するサービスは、令和3年9月開始から14件61冊の貸出である。天竜区の方がよく利用され、全体的に遠隔地の方の利用が多いと感じる。ゆうパックで送付しており、最低金額は810円である。

永 井 委 員 《つくる》の「職員1人当たりの研修参加回数」について、令和2年度及び令和3年度は、コロナ禍のため1人当たりの回数は減少した。令和4年度の目標値はコロナ禍からの回復を見込んでの数値だと思う。働き方改革を加味したものであるならば、この数字は妥当だと思うが、Webによる研修を取り入れるならば、もう少し前向きな目標値を設定してもよい。今回もオンラインで当協議会を行っている。ICT等をより積極的に活用していかないと、時代のサービスについていけないのではないか。未来を見据えての研修を実施してほしい。

三 宅 委 員 《つくる》の「施設・設備の適切な整備・保全」について、図書館の書籍は、古い・汚いとアンケートにある。書籍の入替についても整備に入るのか。書籍購入の予算は年間いくらかけているのか。

高 瀬 館 長 古い書籍が多いというアンケートのご意見があるが、図書館は書籍を保存保管するという役割も担っている。また、新しい書籍は、利用者に貸し出されてしまう割合が高く全体的に古い本が多く見えてしまうことは否めない。図書館要覧に記載しているように書籍購入費は毎年約1億円かけている。中央図書館が休館中のため、今年度の予算は少し減少しているが、人口当たりの書籍購入費は政令市の中でも少なくない。ただ、図書館数が多いため各図書館に割り振ると1館当たりの新しい書籍は少なくなる。

北 脇 委 員 《はぐくむ》の「18歳以下の利用者カード有効登録率」について、令和3年度の目標に対する達成率は93.71%である。年々実績が下がっているが、青少年の図書館利用者カード登録推進に有効な方法はあるか。

高 瀬 館 長 図書館の利用登録者数は、全国的に減少傾向にある。浜松市は新しい図書館が設置されたタイミングで上がる時期があった。現在、中央図書館では、座席予約システムの導入を検討している。図書館利用者は、本を借りるだけではなく、特に若い方は座席利用を目的として来館する人も多い。他都市で座席予約システムを導入している図書館によると、利便性の向上だけでなく、若い方の利用登録が進んだところもある。登録により、座席利用だけではなく、本を借りてみようという気持ちに繋がることも期待している。

- 北 脇 委 員 座席予約ができるのは中央図書館だけか。
- 高 瀬 館 長 現在、中央図書館だけの導入を考えている。
- 三 津 間 委 員 利用者カードの有効期限は5年か。ブックスタートで登録する子も多いと思うが小学校の時には有効期限が切れてしまう。
- 高 瀬 館 長 ご認識のとおり、5年ごとの更新である。ブックスタートで利用者カードを作っても小学校入学時には期限が切れるので、更新していただくことが必要である。
- 石 野 委 員 《つながる》の主要事業である「学生ボランティアの受入など、地元大学との連携。」について、大学との連携は具体的にどのような連携を予定しているのか。
- 笹 竹 館 長 春野図書館では、浜松学院大学及び天竜高校との連携事業を実施した。天竜高校で実施しているビブリオバトルの向上を目的として、浜松学院大学の学生3名がビブリオバトルの実演を行い、その後、春野図書館職員が天竜高校の学生に向け読書について講演をした。
- 三 津 間 委 員 話のきっかけについて知りたい。
- 笹 竹 館 長 浜松学院大学の先生が春野図書館に来館した際、地域と連携して何かできないかという話になった。
- 早 苗 G 長 静岡文化芸術大学の英語に堪能な学生が、ボランティアで、英語による読み聞かせを図書館で行った事例もある。
- 吉 田 G 長 毎年、授業の一環として、静岡大学情報学部の教授数名と大学生が中央図書館郷土資料室に訪問している。
- 三 津 間 委 員 一度繋がった大学とは今後も繋がるとよい。
- 小 杉 委 員 《つながる》の「デジタル化した地域資料のアクセス件数」は、今年度の目標よりアクセス件数の実績が高く評価できる。一方、アンケートでは、デジタルアーカイブを「知らない」とする回答者数が多い。アクセス件数は多いが、「知らない」とする回答者数も多く、矛盾が解消されるとよいと思った。また、土日に図書館の職員がWeb研修に参加した場合、勤務として参加できるのか。Webは便利であるがゆえに、研修を受ける上で、勤務時間の管理等の難しさを感じる。実情に見合った工夫も必要ではないかと思う。

(3) その他

無し

5 閉 会

9 会議録署名人 小杉 大輔 会長
酒井 勇治 委員

令和4年2月22日に開催された浜松市立図書館協議会の議事録の要点について、上記のとおり間違い
ないことを確認した。

令和 年 月 日

署名 _____

署名 _____